

## 今、水生昆虫が面白い

森本静子

(ひとはく地域研究員・認定NPO 法人シニア自然大大学校研究部水生生物科)

### はじめに

16年前、草野駅前で行われた博物館の水生昆虫のセミナーに参加したのがきっかけで水生昆虫のとりこになってしまった。自分の子供たちすら昆虫採集をしたことがない、また、虫の採集や観察というのはテレビでみる別世界のことだと思っていたのに、身近な川にこんなにもいろいろな生き物がいるということが驚きだった。しかも網ですくった中にいた虫は様々な形をしていて初めて見るものばかりだった。博物館のスタッフの方に、これは、あれは、と次々と名前を教えていただいた。今でも覚えているが、私が初めて聞いた水生昆虫の名前はチラカゲロウだった。そして、初めて覗いた実体顕微鏡でエルモンヒラタカゲロウと目が合ったと感じた時の衝撃は大きかった。それ以来、多くの水生昆虫をはじめ水の中の生き物の面白さに魅了され続けている。

### 水生昆虫の面白いところ

水生昆虫は、陸地のほとんどの水域に生息しており、地域、水域の違いで生息するものが違う。採集に行くときは、いつもどんな生き物に出会えるか期待感でいっぱいになる。初めての生き物に出会ったときは嬉しくたまらない。これまでの採集で一番印象的だったのは、採集とハイキングを兼ねて山道を歩いているとき、空き缶が転がっている小さな水たまりがあった。こんなところにいるはずないと一度は通り過ぎたが、もしかしてと引き返して小さな網ですくってみるとカンムリセシジゲンゴロウというきれいな小さなゲンゴロウが十数匹も網に入った。こんなところにはいないだろうという先入観を無くすることで、これまで日本で数か所で見つかった珍しい虫を見つかることもできた。

採集は、いろいろな虫が網に入る。砂や植物片を使って巣を作るものもいる。網の中のものを水を張ったバットに入れてみると、砂粒の塊や葉から頭、脚が出て動き始める。流れの中で石をひっくり返すと石に張り付いていたものがササッと逃げる。泥の中、砂の中、岸辺の植物の根のあたりにもいる。バットの底をよく見ると小さな虫が歩き出す。ゴマより小さくても脚は3対あり、ちゃんと甲虫の体をしている。とにかくどんな水生昆虫に出会えるか、網ですくってみるまで分からないところが面白い。

羽化は、早春にするものが多い。この時期に採集に行くと、目の前で羽化するものもいて寒さを忘れるくらい楽しい採集になる。終齢近い幼虫を家で観察していると羽化の様子を見ることができる。カゲロウの羽化は一瞬の間だが、まるで“ビーナス誕生”のようで感動する。

同定は、図鑑などにある検索表に沿って行う。初めて採集した虫は全く何なのか見当もつかないものもいる。まず脚があるかないかから始めて、順に YES、NO で辿っていくと大まかに何の仲間かまではわかる。しかし、種名まで調べるのはかなり難しい。図鑑の写真を見ただけでは似たようなものが出て違いが分からない。ルーペで図鑑を見ても印刷の網点が大きくなるだけで無駄である。解説を読んでも専門的に書いてあると分かりにくい。ネットで検索してもぼやけた画像で、知りたいことがなかなか出てこない。これはもう自分で調べるしかない水生昆虫のセミナーに参加して、教えていただく同定のポイントを写真に撮ることにした。似たような虫でも種が違えばどこかが違う。違いが分かるようになるとますます水生昆虫が面白くなる。

撮りためた写真で、WEBサイトに水生昆虫写真鑑を作り同定の決め手となる部分の写真を掲載した。数種は仲間から頂いたが、出来る限り自分で採集して生体写真を撮ることになっている。1種、1種と新しい種が増えていくことが面白い。同定に苦労することもあるが、そんな時は研究者の方にお聞きしている。

水生昆虫がただ面白いというだけでなく、知識を深めること、発信していくこと、水生昆虫を通して出会った方々と交流すること、今の自分の生き方そのものが何より面白い。

現在、水生昆虫写真鑑には水生昆虫だけでなく水の中の生き物を含めて約600種掲載している。今後も水生昆虫だけでなく水の中の生き物をもっと見たい、知りたいと思っている。

水生昆虫写真鑑 [www.eonet.ne.jp/~suisaikontyu/index.html](http://www.eonet.ne.jp/~suisaikontyu/index.html)

水生昆虫が面白い

水生昆虫が大好きなんです。これまで撮りためた写真を公開にしました。小さな虫は顕微鏡で覗いてみるよ『日本産水生昆虫検定図説』『日本産水生昆虫』『日本産トンボ幼虫・成虫検定図説』文一総合出版『日本のゲンゴロ』トンボ出版『トンボのすべて』北海道大学図書館『行会』日本産トンボ目幼虫検定図説。全国農村教育協会『新』(2011)『兵庫の川の生き物図鑑』北野館『原色水生大図鑑Ⅱ・甲虫編』に沿って同定、引用しました。感謝しています。

**水生昆虫写真鑑** 全種一覧

- カゲロウ目 掲載数63
- トンボ目 掲載数26
- カワゲラ目 掲載数19
- トビケラ目 掲載数82
- コウチュウ目 掲載数140
- ヘビトンボ目・アミメカゲロウ目 掲載数2
- カメムシ目 掲載数20
- チョウ・ハチ・ハエ目 掲載数29
- 付録 掲載数51
- 卵&不思議物体?
- 宝宝箱(ミズダニ)

有難うございます。 **0488467** 人目です。

[ご意見をお寄せ下さい。](#)

更新日: 2018年11月12日

カメダニ類の一属  
ヒラタダニ類の一属(ミヅザキヒラタダニ)  
ドラタダニ類の一属(オホノヒラタダニ)  
ハンダダニ類の一属  
トゲカサヤシ(ハダカ虫)  
クワノオコノアザシ?

お待ちなミズダニのページです。  
**水中の宝宝箱** 数枚の画像をみてみてください。

トップページ

水生昆虫写真鑑 **トンボのページ**

更新日: 2017年12月19日(オオサカナエ)

[トップページ](#)

アオイトトンボ類	モノサシトンボ類	イトトンボ類
アオイトトンボ類	オソサシトンボ類	モノサシトンボ類
イトトンボ類	ヤマイトトンボ類	ミナミイトトンボ類
アカイトトンボ類	トゲイトトンボ類	コナカイトトンボ類
カワトンボ類	ハクイトトンボ類	リュウキュウハクイトトンボ類
ハクイトトンボ類	ミナミカワトンボ類	ニモンカワトンボ類
ムカシトンボ類	ムカシヤマトンボ類	オニヤマトンボ類
ムカシトンボ類	ムカシヤマトンボ類	オニヤマトンボ類
ヤマトンボ類	オオヤマトンボ類	モンヤマトンボ類
オオヤマトンボ類	モンヤマトンボ類	クワシヤマトンボ類
		コトシヤマトンボ類
		カトリヤマトンボ類
		セツヤマトンボ類
		黒川ヤマトンボ類
		マルヤマトンボ類
		オオアリヤマトンボ類

トンボのページ

オニヤンマ トンボ目オニヤンマ科 [トンボのページに戻る](#) 2018.02.12

生体写真 体長40ミリ 翅は八の字に開く [トップページに戻る](#)

成虫群像

成虫の 体長50ミリ羽化後25日

オニヤンマのページ

ナミフタオカゲロウ カゲロウ目フタオカゲロウ科 [カゲロウのページに戻る](#) 2018.07.01

生体写真 体長20ミリ [トップページに戻る](#)

顕微鏡10倍、20倍の標は2枚、その他は1枚

成虫の

成虫の

ナミフタオカゲロウのページ